

稲作ワンポイントアドバイス(No4)

令和元年7月22日
JA山口県長門統括本部
長門農林水産事務所農業部

1 生育等の状況

●5月上中旬植えコシヒカリ、5月中下旬植えひとめぼれについては、草丈、茎数、葉齢は平年並みで、葉色はやや淡く推移しています。7月に入ってやや低温で推移したため、出穂期は平年に比べやや遅くなると見込んでいます。

調査ほ場での出穂予測

5月6日植えコシヒカリ ⇒出穂期の予測 8月1～2日

5月13日植えコシヒカリ ⇒出穂期の予測 8月1～2日

5月19日植えひとめぼれ ⇒出穂期の予測 8月4～5日

5月21日植えひとめぼれ ⇒出穂期の予測 8月4～5日

●6月上旬植えのきぬむすめは、概ね目標茎数が確保され、葉色はやや濃く、葉は徒長気味になっています。

●病害虫は一部で、コブノメイガの成虫が見られますが、全般に少発生です。

2 今後の管理のポイント

(1) コシヒカリ、ひとめぼれの管理

●穂肥の施用

【分施（基肥+穂肥）の場合】

2回目の施用時期になっています。葉色や茎数に応じた適正な施用を行いましょう。

※施用のポイント等については「ワンポイントアドバイスNO3」を参照してください。

【緩効性肥料（元肥一発）の場合】

緩効性肥料を使用しているほ場でも、極端に葉色がうすい場合は、穂肥の散布を行いましょう。

（出穂10日前までに、窒素量で1kg/10a程度）。

●水管理

出穂前20日間と出穂後20日間は、水を張り田面を露出させないようにしましょう。（土壌中のカドミウム吸収抑制に効果があります。）

水温が高い状態が続く場合は、適宜水の入れ替えや掛け流しを行いましょう。

(2) きぬむすめ、ヒノヒカリの管理

●水管理

移植後35～40日になった頃から「中干し」を始めましょう。（中干しの開始は、1株の茎数が18～20本を目安）

●ケイ酸・加里資材の散布

出穂40日前頃を目安に散布しましょう。

●調査ほ場での出穂期（過去の平均）

品種	移植時期	幼穂形成期	出穂期
きぬむすめ	6/上	7月28日頃	8月19日頃
ヒノヒカリ		8月2日頃	8月26日頃

(3) 病害虫の管理など

・病害虫のこれまでの発生は少なくなっています。また、7月中旬の病害虫防除所からの発生情報では、斑点米カメムシ類はやや多となっていますが、その他の水稻の主要病害虫は平年並みかやや少となっています。

予定している出穂前後の基幹防除を行うとともに、今後の発生情報に注意してください。

・台風で強風が予想される場合は、株の脱水を防ぐため湛水しましょう。

（参考）後半の管理で重要な「出穂(期)」・「穂揃い期（ほぞろいき）」とは？

「出穂期」 止め葉のはかま（葉鞘）から穂の先（籾）が出ている茎が、全体の茎数の40～50%に達した日のこと。このワンポイントアドバイスではこの時期を調査結果から予想し、「出穂」として記載しています。

「穂揃い期」 全体の茎数の80～90%が出穂した日のこと。稲作栽培指針等では生育や防除時期の目安として記載しています。